



# 一般財団法人 南西地域産業活性化センター

2026（令和8）年 6月16日

“南西地域のシンクタンク”

NANSEI SHOTO INDUSTRIAL ADVANCEMENT CENTER

〒900-0015 那覇市久茂地 3-15-9（アルテビル那覇 2F） 電話（098）861-2180

各位

## 景気ウォッチャー5月調査

### 沖縄地域の結果

弊財団は、内閣府が主管する景気ウォッチャー調査を取りまとめている三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社より再委託を受けて沖縄地域の調査を行っております。

この度、5月調査の結果をまとめました。調査の概要は以下の通りです。

1. 物価高や中東情勢の影響がみられたものの、観光需要を中心に景気は好調だったことから、現状判断 DI 値は「53.2」と好況を維持。
2. 夏に向けた需要増加への期待感から先行き判断 DI は「50.3」と「好況」となる見通しだが、物価や中東情勢の先行きへの不透明感は依然としてみられる。

詳しい報告につきましては別紙「景気ウォッチャー調査(沖縄地域)2026年5月調査」をご覧ください。

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

・担当：嘉手納

問い合わせ先：電話 098-861-2180（ファクシミリ 098-869-0661）

E-mail kadena-t@niac.or.jp

報道各社

内閣府において公表された 2026 (令和8)年 5 月  
「景気ウォッチャー調査」の調査結果をもとに、  
弊財団にて、沖縄地域の結果の概要を取りまとめ  
ましたので、皆様に報告いたします。

一般財団法人南西地域産業活性化センター

会長 本永 浩之

## 景気ウォッチャー5月調査（季節調整値） 沖縄地域の結果

### 1. 沖縄地域の現状

- 5月調査の現状判断 DI 値は 53.2 となりました。物価高や不安定な中東情勢の影響もみられますが、前月比 2.4 ポイント増加しており、14 か月連続で景気判断基準値の 50 を上回り好況が続いております。
- 全体的な傾向として好況と判断される理由は、旺盛な観光需要によるものです。
- 以下にコメントの一部を整理しています。

(◎：良、○：やや良、□：不変、▲：やや悪、×：悪)

分野	業種	判断	判断理由
家計動向 関連	百貨店	◎	・インバウンドや家族連れのお客が多く、店舗周辺の人流が増加している。
	観光型ホテル	○	・来客数は前年を上回り好調に推移している。また、客の消費額も前年を上回る状況が続いている。
	旅行代理店	□	・販売量は極端に減少していないが、物価高の影響で上向き要素がみられない。
	一般小売店	▲	・商品包装や、ビニール製品の価格高騰の対応に追われている。
	スーパー	×	・石油由来の製品類や包材類が値上げしているだけでなく、入手困難になりつつある。価格転嫁しようにも、競合店の出方を様子見の状態になっている。
企業動向 関連	輸送業	○	・大口荷主の契約により、景気はやや良くなっている。
	建設業	□	・中東情勢が不透明なため、建築資材や下請の見積りに影響が出ている。
	輸送業	▲	・中東情勢の影響により、燃料費や物流関連資材の価格高騰に加えて、物価上昇に伴う人件費の増加もあり、全体として原価負担が増加している。
雇用関連	求人情報誌 制作会社	○	・エステや期間限定のレジャー関連において人員確保の動きが活発化しており、接客やサービス業全体の求人数は3か月前と比べて20%増加している。
	人材派遣会社	□	・求人案件に対して求職者の動きが鈍く、マッチングにつながらない。

### 2. 沖縄地域の先行き

- 先行き判断 DI 値は 50.3 となり、50 を下回った前月から回復し、再び好況の見通しとなりました。
- 全体的な傾向として、物価高や中東情勢の不透明感がみられるものの、一部業種では夏に向けて需要増加が期待されるコメントがみられました。

- 以下にコメントの一部を整理しています。

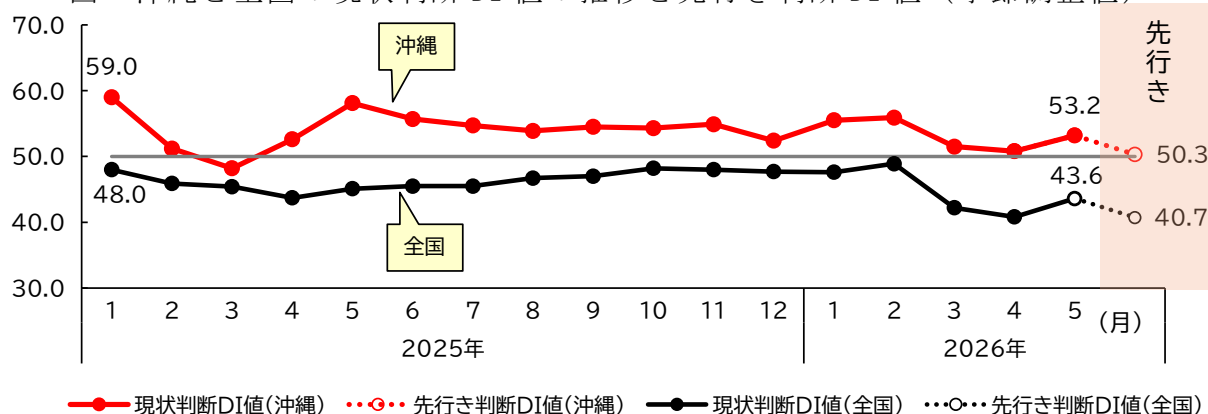
(◎：良、○：やや良、□：不変、▲：やや悪、×：悪)

分野	業種	判断	判断理由
家計動向 関連	家電量販店	◎	・5月は前年横ばいだが、今年は全体的にエアコン、冷蔵庫、テレビを中心に伸長する流れとみられる。
	その他飲食店	◎	・夏場は1年で最も繁忙になる時期なので、現状よりも景気は良くなる。ただし、中東情勢による食料資材不足や原材料価格の高騰が懸念される。
	百貨店	○	・本格的な夏物衣料品需要の増加が見込まれる。
	コンビニ	▲	・ナフサ不足や包材類の原料価格高騰により、販売価格を更に上げざるを得ない状況である。
企業動向 関連	通信業	□	・夏場の本格的な観光シーズンを迎え好調が期待できる。他方で中東情勢を背景とした原油価格の高騰や、物価上昇に伴う家計の節約志向など先行きの不透明感は依然としてある。
	建設業	▲	・建築原価の上昇により受注が難しくなると考える。現在受注している案件でも原価高騰の影響を受け始めている。
雇用関連	求人情報誌 製作会社	▲	・2～3か月後は接客・サービス業やホテル業などが繁忙期を迎えるため、採用活動は抑制される。また、物価高や燃料費の上昇に伴い、その他の業種でも採用活動を抑制する動きが広がるとみられる。

### 3. 所感

- ナフサ不足による影響が、日常生活の中で具体的に表れています。例えば、エアコン取り付け工事に必要な資材の不足や、指定ゴミ袋、板金塗装で使用するシンナー不足などが挙げられます。特にエアコン設置に関して、家電量販店では2027年のエアコン新基準に向けた駆け込み需要が見込まれているため、今後の工事件数の増加と資材不足により、購入から設置までの待機期間は、現在の2週間から更に延びることが予想されます。当財団としても、沖縄経済全体の景況のみを把握するだけでなく、県民の日常生活の実態についても引き続き注視していきたいと思えます。

図 沖縄と全国の現状判断DI値の推移と先行き判断DI値（季節調整値）



出典：内閣府「景気ウォッチャー調査」より NIAC 作成

※「先行き判断DI値」は、調査月から2～3か月先の景気の見通し。